

平成 30 年度 事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日 から 平成 31 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人いのちにやさしいまちづくりぽぽねっと

☆ぽぽねっと聞き書きの会

■企画全体評価

ぽぽねっとの聞き書きカフェとして、市内はもとより、県内及び県外からの参加者が多くなってきた。熱心な参加者が多く、小松の聞き書きカフェから各地域に聞き書きの機運が高まってきている。又、小松市内の各校下の一部では自己啓発の為に聞き書きを拡げたいという声も聞かれる。

■反省点

製本できたのは 3 冊程度。年に 5 冊程度の聞き書き本が出来るようにしたい。

■その他特記事項

- ・ 8/31～9/2 「第 5 回 日本聞き書き学校 in 一関」に参加。
参加者：榊原千秋・松村朋枝・清水まゆ美 3 名
全国の聞き書き仲間と意見交換が出来て大変有意義であった。
- ・ 7/7～7/8 東日本大震災被災地、福島県いわき市訪問。
「チームこのへん」のメンバーと共に参加し、指ヨガと聞き書きコーナーを設置し、いわき市の方々とふれあうことが出来た。
- ・ 小松市民病院緩和ケア病棟にて患者さんの聞き書きを実施。
- ・ 聞き書きをさせて頂いた小松市の伊嶋外帰恵さんが、全国里親会にて優良里親として会長表彰された。伊嶋さんの聞き書き本は 350 円で市内外の家族に届いた。

☆障がい者の居場所づくり

■企画全体評価

- ・ 音楽を取り入れたイベントを、おもちゃ図書館、こぐまの会と共催し、広く市民に参加を呼び掛けた。9/8 に開催。共通する部分を持つ団体と共催することで、費用負担を軽減出来、交流も出来た。
- ・ 「バリアフリーマップ+」制作の活動が、小松短期大学の授業に組み込まれ、関わる学生が増えた。
- ・ 障がい者に関わるイベントに参加、交流し、「バリアフリーマップ+」の紹介が出来た（三ツ出、中川）。
9/9 障がい者ふれあいフェスティバル、
4/14、5/12、6/9、7/14、10/13、11/10、12/8、1/12、2/9、3/9 こぐまの会
6/17 虹を呼ぶコンサート
1/26 「障がいのある人と共に暮らすまちづくり」

■反省点

- ・ 「バリアフリーマップ+」の調査様式の確認の遅れで、新規調査が出来なかった。

小松市や関係団体の行事には参加出来たが、当部会がイベントを企画主催する事が出来なかった。又、お誘い頂いたイベントや勉強会への部会員の参加調整が難しく、参加出来なかったものもある。

■その他特記事項

協働機関の組織改変、担当員の交代に伴い、連絡調整に確認が必要となった。

☆子育て中の親子の育児支援 <そらまめ教室>

■企画全体評価

- ・ほぼ計画どおり事故なく実施できた。
- ・母の仕事復帰と児の入所で卒業者が多く、参加者の減少が心配されたが、すこやかセンターとの連携で新規の方が参加されるようになり、実数としては昨年と同数となった。
- ・平成 26、27 年度頃より第 1 子子育て中に参加し、第 2 子出産後も継続参加されている数名の母達が、自身の体験やそらまめで学んだことを新規の母にアドバイスする様子がよく見られるようになってきた。教室以外でも連絡しあい、他のイベントに誘い合ったり、食事に行っているようで、そらまめ教室の目指すところが達成されつつあることを実感すると共に、教室を継続してきたことのやりがいを感じている。
- ・親や夫との関係、子育て後の女性としての生き方など、他で話をする人がいないのでと相談されることが増えており、継続の力を感じている。
- ・父の単身赴任中に母がインフルエンザの高熱で動けなくなり、すぐに頼れるところがなく、子供たちの世話を駆け付けた例があった。
- ・NPO で継続して支援していることの良さを感じさせられている。

■反省点

- ・すこやかセンターのそらまめ担当者が毎年変わり、そらまめ教室へ母の紹介が来ない時期があった。何度か話し合い解決策を出し合った。今後も連絡をとり意思疎通を心掛けたい。

■その他特記事項

- ・産前産後サポート事業（個別相談）
そらまめ教室の午後予約制で 1 時間半から 2 時間同場所で実施。
年間で 4 回実施。 大人 4 名、子供 3 名参加 スタッフ 3 名で対応。
- ・小松市産後ケア（訪問型）
小松市の委託 年間 3 件 スタッフ 2 名で対応。

☆次世代育成事業

■企画全体評価

小松市主催で認知症ケアコミュニティーマイスター養成研修会を 10 回にわたり実施した。22 名の受講者が、講義受講のみでなく、参加動機のレポート、自分の排尿排便チェック、聞き書き、アクションプランの立案・実践し、11 名（約 50%）がアクションプランの発表を実施できた。今年から専門職のみでなく、認知症ゴールドサポーターを中心とした市民の方も一緒に参加できるスタイルに変更になった。市民の方からも普段できない体験などがあり、同じ地区の地域包括支援センター職員や事業所の方を組み合わせることで、今後につながっていくベースができたと思う。2 年にわたって受講し、マイスターになられた方もおり、1 年間のみではなく数年にわたってゆっくと受講する方法も取れる工夫を検討中である。専門職のみで講座をし

ていたときよりも非常に盛り上がった。専門職にとっても市民にとっても刺激になったようだ。来年度は、ポイント制などにしてより市民の方が参加しやすいカタチに変更する予定。パンフレットなどを利用し、一般に周知するとともにアクションプランも卒業生と一緒にできるようにしていく予定。健脚ボランティア、介護者の会、病院の認知症委員会、町内会長、はつらつ協議会などにも周知していく予定。周知については、マイスターの会が全面協力をしてくれる予定。

参加者数：①26名、②23名、③28名、④32名、⑤22名、⑥31名、⑦21名、⑧28名、
⑨17名、⑩35名

■反省点

- ・特にアクションプランについての意見交換会や予行練習などをしたかったとの声があった。一般の方が参加するにあたり、パワーポイントの作成方法を助言する日も検討していきたい。
- ・なるべくグループワークを行う機会を増やして話す時間をもっと持つ必要があった。
- ・主任ケアマネをとるために研修に参加する人とマイスターになりたくて来ている方だと、講義やグループワークに向き合う姿勢が異なり雰囲気を壊すため、別グループにするなど対策が必要。
- ・小松市民病院は場所や駐車場は良かったが、会場の施錠の関連で必ず市民病院の方の同席が必須のため、かなり負担をかけてしまった

■その他特記事項

- ・一般企業の方や市民の方が参加することで刺激になった。
- ・今後につなげるためにも新鮮な意見交換ができた。

☆ぽぽぽいのちの学校

■企画全体評価

○6/2 第19回 いのちの学校「自宅で看取る」

講師：三砂ちづる氏 参加者：会員9名、一般13名 ※ほっとたいむ共催

○7/4 第20回 いのちの学校「認知症とともに生きる」

講師：オレンジドア代表 丹野智文氏

※小松市民病院、小松市認知症ケアコミュニティマイスターの会共催

○介護のしくみ共生（ともいき）講座

- ・11/17 第1回「そろそろ親の介護が必要かも」 講師：吉田茂樹氏、釣田由美氏
- ・12/4 第2回「さこうじゅって何のこと？」 講師：釣田由美氏
参加者：会員4名、一般3名
- ・1/18 第3回「在宅介護のノウハウを知ろう」 講師：釣田由美氏
参加者：会員8名、一般6名
- ・2/8 第4回「はつらつシニアかんじん帳の活用法」 講師：吉田茂樹氏
参加者：会員7名、一般5名
- ・3/8 第5回「病院側からみた介護の在り方」
講師：小松市民病院つながるサポートセンター長 新多寿氏
参加者：会員9名、一般11名

■反省点

「介護のしくみ共生講座」は毎回充実した内容で好評であったが、情報を必要としている人が参加しにくい時間帯であった為、参加人数をそれほど見込めなかった。

■その他特記事項

- ・いのちの学校は講義内容と参加者が多岐にわたり、多様性を持った部会として育てていきたい。
- ・新しい時代の新しい居場所づくりを目指して、次年度から部会名を「あたらしい居場所づくり部会」と改称する。

☆事務局

■事務局活動

1. 平成 30 年度は 7 回の部会長会議と事務局会議を開催。
 - ・ 4 月 3 日 第 1 回部会長・事務局会議…H30 年度理事会・通常総会の日程打合せ
 - ・ 5 月 1 日 H29 年度監査
 - ・ 5 月 15 日 第 1 回理事会…通常総会議案承認
 - ・ 6 月 16 日 第 2 回部会長・事務局会議…部会活動報告
 - ・ 6 月 24 日 H30 年度通常総会
 - ・ 6 月 28 日 県 NPO 支援センターへ活動報告、法務局報告
 - ・ 8 月 3 日 第 3 回部会長・事務局会議…部会活動報告
 - ・ 10 月 3 日 第 4 回部会長・事務局会議…部会活動報告
 - ・ 11 月 6 日 第 5 回部会長・事務局会議…部会活動報告
 - ・ 12 月 4 日 第 6 回部会長・事務局会議…部会活動報告
 - ・ 2 月 8 日 第 7 回部会長・事務局会議…部会活動報告、
H30 年度理事会・通常総会の日程打合せ